

土づくりと元肥、施肥

土づくりと元肥、施肥は作業の順番というのであればよいのですが、何の作業をするのか、言葉での区別がしにくいと思います。作物のための畑をつくるという考え方と同じだと思いますが、どんな野菜作物を作付けるか、ある程度のイメージをもっているのは良いと思います。

なんでもいいから、堆肥を入れて耕耘しておけば、というのではなく、年月の連続で美味しい野菜を育ててもらうに、畑の準備のため作業の時期と撒く肥料の量を計画しておくことは継続して畑から収穫を得る経験と知恵をつかむことが必要だと思います。

私たちの農園では、土づくり、元肥、施肥、全ての作業は作付前の畑の準備ということと理解します。作業の流れは前作のかたづけ、除草から始まり、以下のような順番です。

はじめに畑の中の、雑草や浮石をみなで横一列になって、畑全体に広がって、見落としのないように、取り除いてゆきます。舟などに元肥3種を適量ずつ入れて、良く混合して、畑は適当な広さに区割りして、均等になるように、大きく広げるよう撒くとよい。(鶏の餌やりのように小さく撒くと、ムラがでやすい。) 種まきや苗の植え付けの2週間ほど前に肥料撒き作業をし、2回目の耕耘を完了しておきます。1週間くらいの時間をおき、落ち着かせてから作物ごとの畝の施肥をします。それからマルチを施工して、できれば1週間後の植付予定を立てるのが良い。

堆肥は、春野菜は2月下旬、秋野菜は8月下旬と決めて、前作の整理後、土を休める感じで1m²あたり、各回 1Kg くらいの量になるように鋤でできるだけ均一に広げる。

タイニーも1m²あたり100gとなるように全体に撒き畑の酸性度を下げます。(化成肥料と同時にしない。) ミネカルは同じように、同時に 1m²あたり 450g 前後(1回、9区画分+通路=6袋) (年間で合計1Kg 弱くらい)を均等になるように、全体を区割りして撒くと濃い、薄いの差を小さくできるのがよいでしょう。すぐにきっちと畑全体を1回目の耕耘をして、できれば1か月弱ほどさらしておく時間をおきます。(根こぶ対策と土作りが中心です。)

元肥は畑に基本的に必要な多種の微量要素を含ませ、作物が元気に育って行ける畑の環境を作つておくことと理解します。目安としては1m²あたり重量50g-100gずつ 硫酸マグネシウム25、BM苦土重焼燐、畑のカルシウム の3種を同量混合して撒きます。

たとえば9区画分(2.5m×12m×9=270m²)は20Kg入り1袋を撒くと1m²あたりやく75g程度となります。通路部分2m×22.5m=45m²を加えて1袋で撒く場合 270m²+45m²=315m² 約63g/m²となります。元肥の量は多種の畑に広く撒く場合は50-75g/m²程度で良いでしょう。

单一の野菜などの筋蒔きの場合も同じように1mあたり重量50g-100gずつ、畑の使用状況や荒れ具合を見て 50g/m、75g/m、100g/mなど状況に合わせて適量に調節して行くのが良いでしょう。

施肥は、作物を育て、野菜として収穫できるように肥料を施すことです。植付けの1週間前までに、畝を測量し、適切な使用する化成肥料の量を各畝に計算して、均等に撒くか、溝肥、筋蒔きかを決めて施肥を行い、3回目の耕耘で畝を作り、再測量、マルチ施工を完了させます。

化成肥料は単品だけでなく、できるだけ有機肥料と併用するのが好ましい。有機肥料の量は気持ち程度もありますが、化成肥料の重量比で半分から4分の1くらいを混ぜるのが良いでしょう。果菜など実のなるものは重量比の半分は有機肥料分(菜種油粕など)が必要と思います。